

茨城大生「café班」

ニンジンの間引き作業を行う
学生たち＝常陸太田市小菅町



茨城大学の学生たちが、就業力育成支援力
リキュラムの一環として開講されている実習
の中で、常陸太田市里美地区の魅力をもPRす
る「里美café班」を立ち上げ、地域住民
と交流しながら活動を続けている。

里美café班のメ
ンバーは、いずれも人文
学部の学生で、リーダ
ーを務める3年生の鈴
木愛実さんと2年生4
人の計5人。「里美地

常陸太田・里美の魅力PR

実習通し住民と交流

区のPRのため、一緒に活動してほしい」という同市地域おこし協力隊の呼び掛けに応えて、結成された。6月から毎月1回、里美地区を訪れ、農作業を行い、夏祭りに参加するなどしている。

里美café班は15、16の両日、水戸市の水戸芸術館広場で開かれる「あおぞらクラフトいち」に出店。里美地区の食材を生かした手作りパンケーキの販売などを通して、魅力を知ってもらうことにしている。4回目の訪問となった11日は食材の確保を兼ねて、小菅町の畑で育ててきたニンジンの間引き作業を行った。

リーダーの鈴木さんは「自然が豊かで、住民の皆さんも温かい。訪れるたびに、若い人たちがもつと里美地区に興味を持ってください、という思いが強い」と話した。地域に根差した体験学習について「新鮮で楽しい」と語った。市域おこし協力隊の石川明紗さんは「若者の情報発信力に期待している」と述べた。

里美café班は今後、11月に開かれる茨城大学の学園祭にも出店するなどして、里美地区の食材をはじめとするPR活動を水戸市を中心に進めていく。

(谷津馨)